

Asia Indicators

発表日: 2023年7月28日(金)

ニュージーランド、輸出に底堅さの一方で輸入は頭打ち (Asia Weekly(7/24~7/28))

~韓国と台湾の生産は外需を巡る不透明感が重石となる展開が続いている~

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/24(月)	(ニュージーランド)6月輸出(億 NZドル)	63.1	--	69.7
	6月輸入(億 NZドル)	63.0	--	69.1
	(マレーシア)6月消費者物価(前年比)	+2.4%	+2.4%	+2.8%
	(シンガポール)6月消費者物価(前年比)	+4.5%	+4.6%	+5.1%
	(台湾)6月失業率(季調済)	3.45%	--	3.50%
	6月鉱工業生産(前年比)	▲16.63%	--	▲15.71%
7/25(火)	(韓国)4-6月実質 GDP(前年比・速報値)	+0.9%	+0.8%	+0.9%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	5.75%	5.75%	5.75%
	(香港)6月輸出(前年比)	▲11.4%	--	▲15.6%
	6月輸入(前年比)	▲12.3%	--	▲16.7%
7/26(水)	(オーストラリア)4-6月消費者物価(前年比)	+6.0%	+6.2%	+7.0%
	(シンガポール)6月鉱工業生産(前年比)	▲4.9%	▲6.8%	▲10.5%
	(タイ)6月輸出(前年比)	▲6.4%	▲7.3%	▲4.6%
	6月輸入(前年比)	▲10.3%	▲7.3%	▲3.2%
7/27(木)	(タイ)6月製造業生産(前年比)	▲5.2%	▲2.5%	▲3.1%
7/28(金)	(韓国)6月鉱工業生産(前年比)	▲5.6%	▲5.5%	▲7.6%

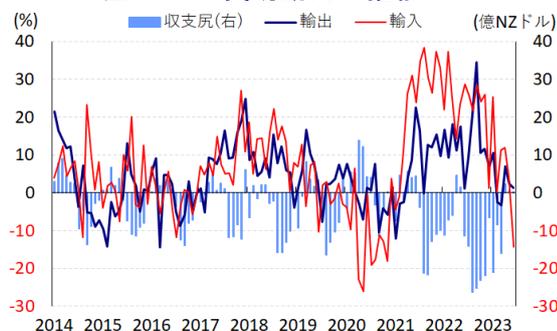
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド]~輸出に底堅さがうかがえる一方、輸入は内需の弱含みを反映して頭打ちの動きを強める~

24日に発表された6月の輸出額は前年同月比+1.3%となり、前月(同+2.4%)から伸びが鈍化している。前月比は▲1.7%と前月(同+0.5%)から4ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅く推移している。財別では、主力の輸出財である乳製品関連や食肉関連、木材関連、果物関連などの輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、原油関連や機械製品関連などの輸出の底堅さが輸出全体を下支えする展開が続いている。国・地域別でも、隣国の豪州向けや米国向けなどに底堅い動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEANなどアジア新興国向け、日本向けなどで底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比▲14.4%となり、前月(同+3.9%)から2年4ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比は▲6.3%と前月(同▲5.0%)から3ヶ月連続で減少しており、

中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出と対照的に頭打ちの動きを強めている。財別では、原油や石油製品関連の輸入に底堅い動きがみられるものの、機械製品関連や電気機械関連、縫製品関連、光学製品関連など幅広い分野で輸入に下押し圧力が掛かるなど、需要の弱含みを反映する動きがみられる。結果、貿易収支は+0.09 億NZドルと前月（+0.52 億NZドル）から黒字幅が縮小している。

図1 NZ 貿易動向の推移

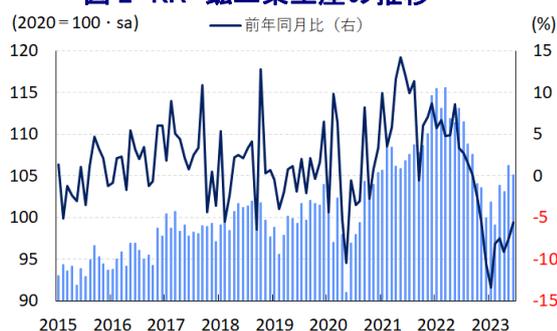


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国]～外需を巡る不透明感に加え、内需を取り巻く環境悪化も重なり、幅広く生産活動が下押しされている～

28日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比▲5.6%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲7.6%）からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は▲1.0%と前月（同+3.0%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移しており、頭打ちの動きが続いている。商品市況の調整の動きが重石となる形で鉱業部門の生産に大きく下押し圧力が掛かっているほか、製造業の生産も再び調整の動きを強めるなど、全般的に生産が弱含む様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産に底堅い動きがみられるものの、自動車をはじめとする輸送用機械関連のほか、電装品関連の生産が弱含む動きをみせているほか、食料品をはじめとする消費財関連の生産も下振れするなど、幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かっている様子がうかがえる。

図2 KR 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～雇用は一段と底入れの動きを強める一方、生産活動は幅広い分野で下振れする展開が続いている～

24日に発表された6月の失業率（季調済）は3.45%となり、前月（3.50%）から0.05pt改善している。失業者数は前月比▲0.5万人と前月（同▲0.6万人）から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが一段と進んでいる様子がうかがえる。既卒者のみならず新卒

者でも減少の動きが進んでいるほか、非自発的失業も減少の動きを強めるなど、量のみならず質の面でも改善が進んでいる。一方の雇用者数は前月比+1.0万人と前月（同+1.4万人）から丸1年に亘って拡大が続いており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。分野別では、比較的堅調な推移をみせてきたサービス業や建設業のみならず、鉱業部門や製造業部門などでも底入れの動きが確認されるなど、幅広く雇用を取り巻く環境が改善している。雇用環境の改善を受けて労働力人口も拡大する動きが確認されている一方、労働参加率は59.22%と前月（59.23%）からわずかに低下しているものの、依然として高水準で推移している。

同日に公表された6月の鉱工業生産は前年同月比▲16.63%と13ヶ月連続で前年を下回る伸びが続いており、前月（同▲15.71%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲0.68%と前月（同+3.04%）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産のほか、家具など木工業品などの生産に底堅い動きがみられるものの、これら以外の電気機械関連のほか、輸送用機械関連、化学製品関連、金属関連など幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、世界経済の減速懸念の高まりに加え、最大の輸出相手である中国本土との関係悪化懸念なども外需を通じた生産活動の重石になっている。

図3 TW 雇用環境の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図4 TW 鉱工業生産の推移



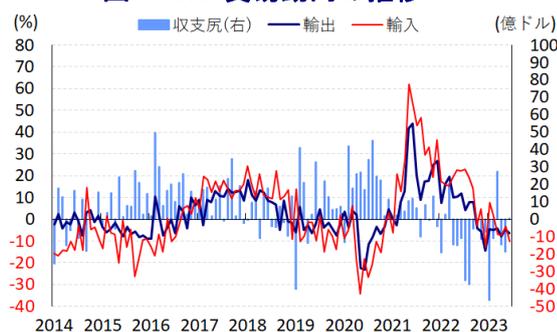
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[タイ]～外需を巡る動きは頭打ちの推移が続くなか、こうした動きを反映して製造業の生産動向も頭打ちが続く～

26日に発表された6月の輸出額は前年同月比▲6.4%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲4.6%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である自動車をはじめとする輸送用機械や電気機械など機械製品関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、金の輸出額に下押し圧力が掛かっているほか、農産品関連や鉱物資源関連の輸出が低迷していることが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲10.3%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びが続いており、前月（同▲3.2%）からマイナス幅も拡大している。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きが続いている。輸出が力強さを欠く展開が続いていることを反映して素材や部材関連の需要に下押し圧力が掛かっているほか、商品市況の調整の動きも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は+0.58億ドルと前月（▲18.49億ドル）から3ヶ月ぶりの黒字に転じている。

27日に発表された6月の製造業生産は前年同月比▲5.2%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲3.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲0.21%と前月(同+3.14%)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。分野別では、電気機械関連や縫製品関連などで生産に底堅い動きがみられる一方、主力の輸出財である自動車など輸送用機械関連や電子部品関連などで生産が下振れする動きが確認されるなど、外需を巡る不透明感が生産活動の足かせになっている様子がうかがえる。

図5 TH 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図6 TH 製造業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～インフレ率は1年2ヶ月ぶり、コアインフレ率も1年ぶりの伸びとなるなどとも頭打ちしている～

24日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+2.4%となり、前月(同+2.8%)から鈍化して1年2ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比は+0.15%と前月(同+0.15%)と同じペースでの上昇が続いており、原油などの国際価格の低迷の動きなどを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移が続く一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇が続くなど、生活必需品を巡る物価はまちまちの動きをみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+3.1%となり、前月(同+3.5%)から鈍化して丸1年ぶりの伸びとなっている。前月比は+0.16%と前月(同+0.31%)から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格が落ち着いた推移をみせていることを反映して輸送コストも安定するなかで幅広く財価格が抑えられている一方、経済活動の正常化が進んでいることを受けてサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる。

図7 MY インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～インフレ率は1年4ヶ月、コアインフレ率は1年1ヶ月ぶりと、ともに頭打ちの動きを強めている～

24日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+4.5%となり、前月(同+5.1%)から鈍化して1

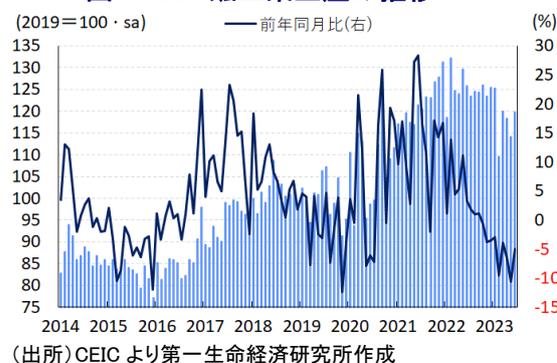
年4ヶ月ぶりの伸びとなっている。ただし、前月比は+0.48%と前月（同+0.32%）からわずかに上昇ペースが加速しているものの、原油の国際価格などの低迷の動きを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移をみせているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格の上昇圧力も後退するなど、生活必需品の物価は落ち着いた動きをみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+4.2%となり、前月（同+4.7%）から鈍化して1年1ヶ月ぶりの伸びとなっている。ただし、前月比は+0.19%と前月（同+0.09%）から上昇ペースは加速しており、エネルギー価格の落ち着きを受けた輸送コストの安定に加え、国際金融市場における通貨SGドル高を反映して輸入インフレ圧力が後退していることも重なり、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価は押し上げられるなど対照的な動きをみせている。

26日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比▲4.9%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲10.5%）からマイナス幅は縮小している。前月比も+5.04%と前月（同▲3.61%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ち感がうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの流れを大きく変えるには至っていない。同国においては、月ごとのバイオ・医薬品関連の生産が大きく上下に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲0.55%と前月（同+14.90%）に大きく拡大した反動で減少に転じている。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比+6.64%と前月（同▲8.14%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、精密機械関連などで堅調な生産が続いていることが生産全体を下支えしている。ただし、化学製品関連や食料品関連、縫製品関連など幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かるなど、世界経済の減速懸念が生産活動の足かせになっている。

図8 SG インフレ率の推移



図9 SG 鉱工業生産の推移

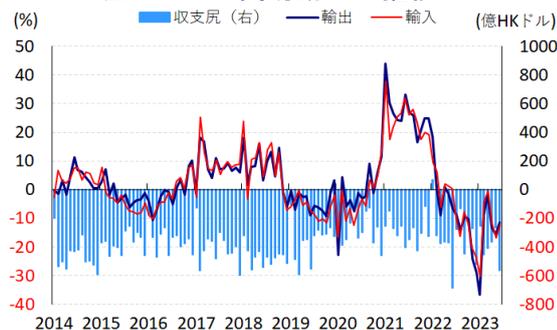


【香港】～新興国向けに底堅さも、米中摩擦の激化や世界経済の減速懸念が輸出入双方の重石となる展開～

25日に発表された6月の輸出額は前年同月比▲11.4%と14ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲15.6%）からマイナス幅は縮小している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの兆しがうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの流れを大きく変えるには至っていない。財別では、食料品や木製品関連のほか、主力の輸出財である電気機械関連などで輸出に底打ち感が出る動きがみられるものの、金属関連や非鉄金属関連、発電機などの機械製品関連の輸出は弱含む動きが続くなど、分野ごとに跛行色がうかがえる。国・地域別でも、アジア新興国向けや中東向けなどは堅調な動きをみせる一方、米国向けや欧州向けな

どは頭打ちの動きを強めるなど、景気減速懸念や米中摩擦の激化などが輸出の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲12.3%と12ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲16.7%）からマイナス幅は縮小している。前月比も4ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの流れが続いている。商品市況の調整の動きが輸入額を下押しする展開が続いている上、輸出を巡る不透明感は素材や部材などに対する需要の重石となっている。結果、貿易収支は▲565.74億HKドルと前月（▲263.99億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図10 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。